

令和4年度
共に学び、生きる共生社会コンファレンスin北海道
第5分科会「行政の世界」

いわみざわ アートアカデミー

主催：北海道教育委員会／文部科学省 共催：医療法人稲生会

文化・芸術の重要性

・魅力的なまち

(かつて)道路や下水道が整備されている

(現在)美しい景観、文化を感じられる町並み

・発展している都市

芸術家、デザイナーなどクリエイターが集積している。



- 魅力的なまちづくりを行う上で、都市間競争に勝ち抜くためにも、文化や芸術の素養は、きわめて重要
- 単に展覧会やコンサートを実施するのではなく、文化権の保障や地域の創造性を高める事業を計画して実施するための人材＝アートマネジメント人材の育成が必要

文化・芸術の重要性

元 気 八 策 2020

市民が誇れる芸術・文化・スポーツの薫り高いまちづくり

- 誰もが芸術文化を身近に親しむことのできる環境づくりと活動を担う人材づくり等への支援
- 北海道教育大学岩見沢校の持つ豊かな人材と知的資源を、芸術・文化・スポーツをはじめとする様々な分野で活用
- 生の芸術アールブリュット拠点施設について、共生のまちづくりの視点で拠点整備構想づくりに着手
- 「オリンピック・パラリンピック」に向けた合宿受入れのほか、将来のトップアスリートをめざす子どもたちや、スポーツ強化活動を力強く支援
- 老朽化したスポーツセンターに代わり、市民の健康づくりを推進する新たなスポーツ施設（多目的アリーナ）建設の構想に着手

アートアカデミー実施概要

学校卒業後における障がい者が、北海道教育大学の教員や学生と関わりを持ちながら、芸術の鑑賞、創作について学び、展示会の開催にかかわることで自己実現を図り、ひいては芸術を教わる側から教える側になることで、地域社会の中で役割を持ち、自尊心をもって自分らしく暮らせる社会の実現を目指す。

【参加申し込み者：33名】

- ①芸術鑑賞学習
- ②創作体験・創作学習
- ③展示技術学習
- ④展示実践学習



いわみざわ アート アカデミー

IWAMIZAWA ART ACADEMY

**受講料
無料
定員20名**

田中 純太「ハード&アート 2021」 出版作品(部分)

障害のある人の学校卒業後の学びの場として、北海道教育大学岩見沢校の協力のもと芸術鑑賞、創作等について学ぶ「いわみざわアートアカデミー」を開催します。

創作体験・創作学習会	作品展示会
全4回 (9/28・10/12・10/26・11/9)	期間 12/1(木)～12/7(水)
会場 岩見沢市生涯学習センターいわなび (岩見沢市4条西1丁目3-4)	会場 北海道教育大学岩見沢校「森の芸術ギャラリー」 (岩見沢市緑が丘2丁目3A 大学構内)
時間 13:30～16:30	時間 10:00～16:00 (最終日 12:00まで)

主催：岩見沢市
令和4年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

講義&体験
全4回

1 創作体験・創作学習会

北海道教育大学岩見沢校の学生と一緒に、様々な画材の使用方法について学びます。また、実際に画材を使って制作を体験します。
講師：北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント美術研究室
会場：岩見沢市生涯学習センターいわなび 2階研修室5・6
時間：13:30～16:30

- ① 9/28 (水) さまざまな画材に触れる
- ② 10/12 (水) 創作の多様性を体験する
- ③ 10/26 (水) 表現を深める
- ④ 11/9 (水) 作品で想いを伝え合う

2 作品展示会

鑑賞

アートアカデミーで受講生が制作した作品の展覧会を行います。
会場：北海道教育大学岩見沢校「森の芸術ギャラリー」
期間：12/1(木)～12/7(水)
10:00～16:00(最終日 12:00まで)

申込方法

参加申込書に必要事項を記入のうえ、下記提出先への直接提出またはFAXでご提出ください。メールで申込する場合は、メール文に必要事項を記載して下記アドレス宛てにお送りください。

申込書提出先：岩見沢市役所1階 福祉課 14番窓口
 Eメール：fukushi@i-homanosu.jp FAX：0126-24-0294
 申込期日 **令和4年9月21日(水)**
 【問合せ】岩見沢市役所健康福祉福祉課(担当：山田・久保) ☎0126-35-4112(直通)

いわみざわアートアカデミー参加申込書

ふりがな		
氏名		
住所		
電話番号	自宅：	携帯：
FAX		
メールアドレス		
事前確認事項	①参加する際に必要とするサポートがあれば <input checked="" type="checkbox"/> をつけてください。 <input type="checkbox"/> 手話通訳 <input type="checkbox"/> 筆談 <input type="checkbox"/> 点字 <input type="checkbox"/> その他() ②油彩体験を希望する場合は <input checked="" type="checkbox"/> をつけてください。 <input type="checkbox"/> 希望する	

アートアカデミー開催の様子

創作体験・創作学習会

- 9月28日 さまざまな画材に触れる
- 10月12日 創作の多様性を体験する
- 10月26日 表現を深める

毎回、テーマを設定して講座を行い、受講者に新しい発見があるように工夫しました。



北海道教育大学岩見沢校
アートマネジメント美術研究室による講義

画材のことなど、知的障がいのある人にも分かりやすく伝えられるよう写真を活用した資料で解説

専門的な道具を使う油絵も、各テーブルに学生がついて丁寧に説明し、チャレンジしやすいようにしました。
はじめて油絵具をさわる人ばかりでしたが、「絵の具を盛り付ける感覚が楽しい」と一番人気の画材となりました。



・ 油彩絵の具を用いた技法



○重ね塗り

絵の具を油と少し混ぜ、それをペインティングナイフでキャンバスに乗せていく技法

とにかく絵の具をたくさん乗せる事がポイント

絵具を立体的に乗せれるのは油彩画の特権！



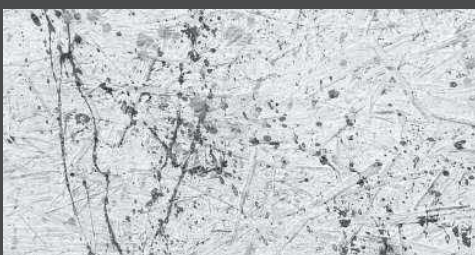
・ 水彩、アクリル、油彩で使える技法



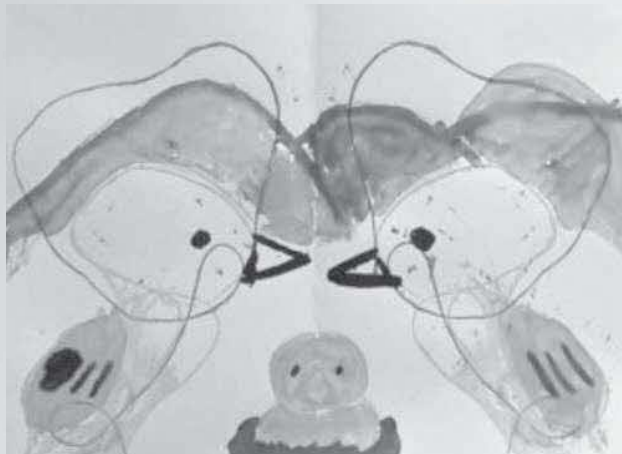
○ドリッピング

絵の具をしたたらせる技法

筆を思い切りふって絵の具を飛ばしたり、ストローなどを用いて息を吹きかけると面白いかたちになる



糸引き絵の魅力



- ・ 絵を描くのが苦手な人でも、**簡単に制作ができる**
- ・ 偶然性を生かすことで、普段とは違う**新鮮な表現に出会える**
- ・ 完成した模様から**想像力を膨らませて**、新たな創作に繋がられる

アートアカデミー開催の様子

創作体験・創作学習会

11月9日 作品で想いを伝えあう

～障がい当事者による講義・創作ワークショップ・鑑賞会～



自身も精神に障がいを抱えながら創作活動をしている今恵美子さんが講師となり、自分の体験談や創作にかける思いなどを語り、会場みんなが同じテーマで創作するワークショップを行いました。

「自由に塗った色から植物のつるを伸ばし、その先に自分が好きなものを描く」というテーマで創作しました。

今恵美子さんが参加者のテーブルをまわって、創作の助言をしました。



アートアカデミー開催の様子

創作体験・創作学習会

11月9日 作品で想いを伝えあう

～障がい当事者による講義・創作ワークショップ・鑑賞会～



参加者が創作した作品に込めた想いを話し、今恵美子さんが見どころやポイント等を解説
参加者みんなでお互いの作品を鑑賞しあう場としました

アートアカデミー会場の近くにあるギャラリーで開催中の今恵美子さんの個展に参加者が訪れ、今さんご本人の解説も聞きながら、作品を鑑賞しました



アートアカデミー開催の様子



アートアカデミー展示会

Our Life is Our Art !

12月1日(火)～7日(金) 10時～16時
北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」

参加者が創作した作品を、教育大学キャンパス内の「森の岩ギャラリー」に展示しました。
会場内では、今恵美子さんのワークショップで創作した作品とともに、ワークショップ当日の様子を映像で流しました。

いわみざわアートアカデミー参加者作品展示会

OUR LIFE IS OUR ART!

2022/12/1(THU)-12/7(WED)
10:00-16:00
最終日12:00 CLOSE

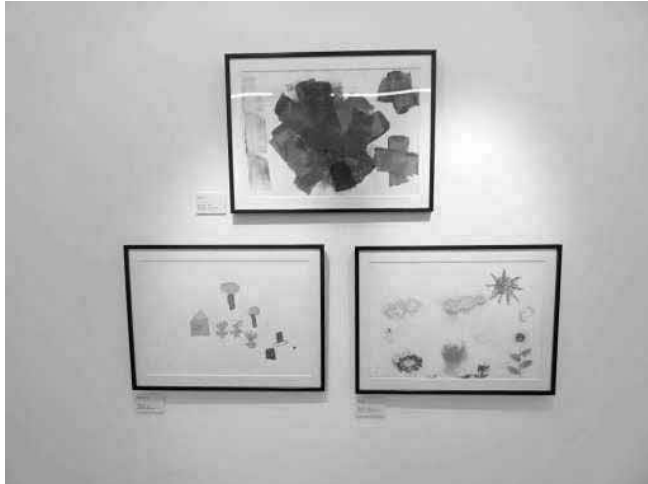
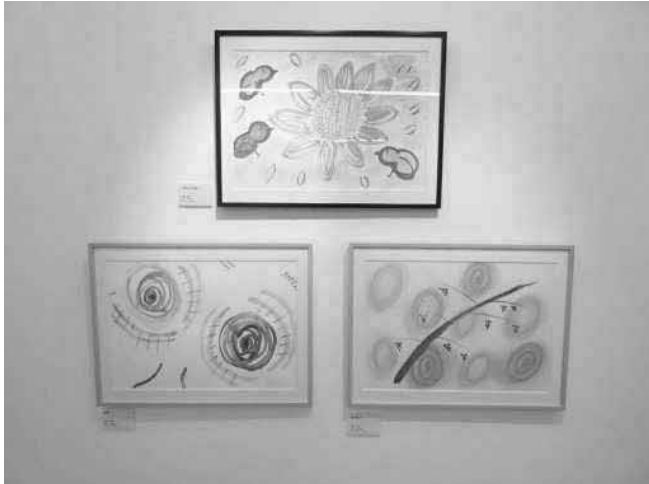


高橋日向「無題」
キャンバス・油彩

北海道教育大学岩見沢校
森の岩ギャラリー

岩見沢市緑が丘2丁目34
北海道教育大学岩見沢校構内

問合せ:
岩見沢市健康福祉部福祉課
0126-35-4112(直通)



障がいのある人の学校卒業後の学びとしての芸術文化の可能性

【アンケートでのご意見】

「良かった」、「楽しかった」との声が多かったが、「レベルが自分には高かった」、「もっと創作時間が欲しい」との意見も。

- 前年度よりも創作の時間は長めに設定したが、障がいの特性から描き始めるまでに時間がかかる人もおり、タイムテーブルどおり進まないこともあった。障がいの種別・程度によって、集中して受講できる時間の長さや理解度が異なるので、休憩を多くとったり、個別の支援をしっかりとつけるといった工夫が必要。

「障がいのある人が学校卒業後に学びを深めるためにはどんなことが大切か？」

- ・高いレベルの勉強ができるように、場所とか機会を増やしたらよいと思う。
- ・一般向けのイベントでも要望に応じて手話通訳を手配するなど、合理的配慮により障がい者を排除しない工夫があるといいと思います。
- ・人とのふれあひが必要です。
- ・単会でもこのような機会があることを大変うれしく思います（原文）。

